

# 任命再委用 「話し合い」攻撃にうごく政府・公団・県当局

## 11・27千葉県庁抗議行動へ

三里塚反対同盟は、この間、十・二三全国集会を頂点に、「話し合い」攻撃に打って出てきた空港公団を撃退、千葉駅頭を中心とした「土地収用法反対！二期工事阻止！」の全国署名運動などを精力的に展開し、千葉県土地収用委員会委員の全員辞任、反対同盟の現地闘争本部の強化などをかちとった。

政府・空港公団は、そうした反対闘争の前進に「ショック」を受け、またぞろ「話し合い」攻撃などをわめき、反対同盟をなんとかしてでも切り崩そうと反動を強めている。とりわけ、「収用委員全員辞任」という事態に、あせりの色は隠しきれない。

政府・公団は、八六年六月に打ち出した「第五次空港整備計画」のもと、「成田空港の九〇年二期工事概制、完全空港の供用開始」を「最大の目標」とう。

十一月の公団人事異動で、反対同盟期り船も先頭で行ってきた松井、服部らが総裁・副総裁に就任すると言われ、千葉県知事沼田は、県収用委の再任命と十二月県議会での委員の承認を狙い、運輸省は、「公共用地の取得に関する特別法」（国家事業のための土地強奪の決定を建設大臣が一人で行うという超反動的な法律）の適用を狙っている。県収用委の再任命を許さず、十一・二七千葉県庁抗議行動に起とう！

卑劣な公団を許さない 反対同盟事務局長 北原鉦治氏



千葉県収用委員が全員辞任したことは、良識ある行動と高く評価している。十七年前、収用委員会が下した裁決によって第一次、第二次代執行が行われた。

政府・公団は、国家暴力で大木よねの

住みなれた家屋を破壊し、たたき出すという非人間的な暴挙を行い、あらゆる階層の人から「あの代執行についてはあまりにひどいではないか」という世論がわきこおった。

当時収用委員会会長は担馬という人だったが、会長自身も「あのような裁決や代執行は二度と行いたくない」と言っている。

新聞は、今回の収用委員全員辞任ということに「民主主義への挑戦だ」とか「おどしといやがらせ」

と書きたてているが、本当にそうなのか。彼らはこの二三年間、北総台地で何が起こってきたのかを十分承知している人である。このような収用委を再開し審議や裁決を強行したらいったいどうなるのかと考えて辞めたと確信している。

いまもわれわれ農民には昼夜をわかつたぬいやがらせや脅迫が続いている。強制収用のどう喝はずっと続いている。機動隊のテロやいやがらせも日常茶飯事だ。悪質ないやがらせは後を絶たない。私に対してもダンプやジャリ、石油、すしが届き、タイマー付きの爆弾がかけられたりした。しかし、そんなことでわれわれはたたかいたをやめはしなかった。

最近公団が敷地内に入ってきて「色々申し訳なかつた」などといったそうだ。しかし、その反面、公団秋富総裁は「夜間工事を集約的に行うとか建設機材を全国から集めて工事をどしどしやっていきたい」と言っている。

反対同盟はこんなやり方に屈しない、一層決意を燃えあがらせてたたかっていく。

## 右翼労戦統一に反対する

## 12・17労働者集会に結集しよう！

十一月六日午後二時から、動労千葉会館において、右翼労戦「統一」に反対する十二・一七労働者集会の第一回運営委員会が開催された。呼びかけ人の佐藤芳夫氏（東京地域連帯労組委員長）、中野委員長をはじめ、全通、教組、自

治労、国労、民間の労組役員・活動家が出席し、田中企画部長を座長に、活発な討論が交わされた。佐藤氏は、「このたび全造船と決別し、東京連帯労組と名称を変更した。昨年六名から発足したが現在二〇名にふえている。抑圧・

差別されている労働者の闘いと連帯し、帝国主義と対決する労働運動が必要である。『連合』と対決できる運動を作っていこう」と提起、中野委員長は、「いま、労働運動は歴史的大流動化に突入している」と提起した。